

<目的>

2012年～2022年にかけてロコモ認知度を80%まで高めることが国策となっているが、ここ1～2年認知度は50%を切ったままである。

そこで最前線の整形外科医がロコモに関しどのような意識をもって日常診療や地域医療に臨んでいるかを知るため、全国JCOA会員にアンケート調査を行った。

その結果からロコモ認知度向上のための今後の課題について検討を行った。

<方法と結果>

対象は全国のJCOA会員5,941人で、2017年1月～2月にかけてネットおよびFAXによりロコモに関する8項目のアンケート調査を行い、731名より回答が得られた。

回答者の9割が、日々の診療でロコモの説明や指導などロコモ予防の大切さ、地域包括ケアや運動器検診での整形外科医の役割が重要であることは、よく認識していた。

一方、ロコトレのリハビリへの活用、ロコモコーディネーター制度の認知、および運動器検診の事後措置でのストレッチ指導等について「はい」と答えた会員はまだ半数強であり、具体的なロコモ対策・実践が十分とは言えなかった。

<考察と結論>

- ① 整形外科施設での積極的なロコトレ導入が、自施設の患者・家族ひいては地域全体のロコモ認知度アップにつながることを期待される。
- ② ロコモコーディネーター制度の認知および自施設での養成が、今後、地域でのロコモ啓発・介護予防事業につながる。
- ③ 運動器検診の事後措置として、身体のかたい子どもに姿勢矯正や簡単なストレッチ等の「子どもロコモ対策」を親子で取り組むよう、丁寧に指導することが、親世代の認知度アップにもつながるものと期待される。